

文書分類番号	00	09	03	002	永 年	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議 長	副議長	局 長	副主幹	係 長	主 査	担 当	文書取扱主任		

第 17 回 厚 生 常 任 委 員 会 会 議 録

開催年月日		平成 29 年 1 月 19 日（木曜日）		開会 14 時 30 分		閉会 15 時 30 分	
開催場所		第一委員会室					
出席委員		堀、木下、舘内、田村、水口、山口				事務局	竹谷事務局長
							菊田副主幹
欠席委員		なし					村井主査
説明員		別紙のとおり		議 件		別紙のとおり	
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について						
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、全て報告済みとした。						
	(1) 経営状況報告について						
	(2) 滝川市立病院経営計画（素案）について						
	(3) 国保会計の平成 28 年度決算見込みについて						
	(4) 滝川市中央老人福祉センターの土曜日臨時休館について						
	2 その他について						
	なし。						
	3 次回委員会の日程について						
	正副委員長に一任することに決定した。						
	上 記 記 載 の と お り 相 違 い な い。 厚生常任委員長 堀 重 雄 ㊞						

平成29年1月17日

滝川市議会議長 水 口 典 一 様

滝川市長 前 田 康 吉

厚生常任委員会への説明員の出席について

平成29年1月4日付け滝議第137号で通知のありました厚生常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

市民生活部長	舘 敏 弘
市民生活部次長	石 川 雅 敏
市民生活部保険医療課長	原 田 暢 裕
市民生活部保険医療課長補佐	岩 本 美 鈴
市民生活部保険医療課係長	大 崎 直 樹
保健福祉部長	国 嶋 隆 雄
保健福祉部介護福祉課長	黒 川 靖 子
保健福祉部介護福祉課長補佐	土 橋 祐 二
保健福祉部介護福祉課係長	鈴 木 勝 敬
市立病院事務部長	田 湯 宏 昌
市立病院事務部次長	椿 真 人
市立病院事務部事務課長	堀 勝 一
市立病院事務部事務課係長	渡 辺 弘 行
市立病院事務部事務課主査	高 林 宏 光
市立病院事務部事務課医事係長	矢 野 健 介

(総務部総務課総務係)

第17回 厚生常任委員会

日 時 平成29年1月19日（木）

午後2時30分～

場 所 第一委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶（委員動静）

1 所管からの報告事項について

《市立病院》

（1）経営状況報告について

（資料）事務課

（2）滝川市立病院経営計画（素案）について

（資料）事務課

《市民生活部》

（3）国保会計の平成28年度決算見込みについて

（資料）保険医療課

《保健福祉部》

（4）滝川市中央老人福祉センターの土曜日臨時休館について

（資料）介護福祉課

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第17回 厚生常任委員会

H29. 1. 19 (木) 14:30～

第一委員会室

開 会 14:30

委員長 ただいまから第17回厚生常任委員会を開会いたします。

委員動静報告

委員長 委員動静ですが、委員は全員出席。傍聴は清水議員、安樂議員、本間議員、井上議員、荒木議員、関藤議員、東元議員が出席。また、報道として北海道新聞、プレス空知の傍聴を許可します。

1 所管からの報告事項について

委員長 (1)、経営状況報告について説明を求めます。

(1) 経営状況報告について

田湯部長 病院の経営状況については、今年度四半期ごとに報告させていただいていますが、4月から12月までの経営状況を事務課長から説明させていただきます。

堀 課 長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わりました。

質疑ございますか。

館 内 28年度の平均患者数で入院が215.2人、外来が847.8人で、12月までは27年度並ということだが、改善の兆しはないと考えていいのでしょうか。

堀 課 長 1月の入院の状況を申し上げましたが、昨日時点で260人を超える状況で、今後の推移については、読めない部分もありますが、現在は入院もふえてきている状況です。この後説明する経営計画をつくって改善に向けていくところですので、ご理解願います。

委員長 ほかに質疑ありますか。

田 村 12月入院稼働率は何パーセントくらいか。

堀 課 長 70パーセントになります。

田 村 ちなみに、10月、11月、12月の稼働率についても伺います。

堀 課 長 ベッド数が314床になりますので、10月が65.5パーセント、11月が69.1パーセント、12月が70パーセントです。

田 村 入院させる基準というか、例えば、骨折しても入院できなかったという方もいるが、どういう基準をもって入院させる、させないということになっているのか、基準について伺います。

田湯部長 入院の基準は、それぞれドクターの判断によるものと考えています。ケースバイケースで、救急外来に転倒して骨折された方でも診察だけして、翌日、また来ていただくとか、検査が必要な方は一回お帰りいただく場合もありますし、即入院という場合もあります。一概にはお答えできない状況です。

田 村 入院させたから利益が出るというものではないけれども、入院したいのだけでも入院できないということがある。それは、例えば、骨折していて家庭にいても何もできない。そういう方をギブスをはめて落ち着くまで入院させるとか、そういうようなことはできないのでしょうか。そうしたら、それによって稼働率も上がるだろうし、ドクターの判断というのはわからないでもないが、患者さんの希望というものを受け入れる方法はないのでしょうか。

田湯部長 以前から田村委員からも早く退院させられるという話がありました。一般病床は平均在日数18日以内ということで、7対1の基準をクリアしていますが、大

体平均すると十五、六日で退院していただくということになっています。従前から話をしておりますが、去年の3月に地域包括ケア病棟を45床で開設しています。そちらのほうは50日まで入院可能ということで、大体そちらは平均すると30日を超える入院患者がいるということで、長くなる方はそちらのほうに移ってもらって、十分治してもらってから退院をしていただくということで、12月に理学療法士1名を採用して、順調に稼働率も上がっております。昨日現在、45床のうち33名の方が入院をしている状況です。

委員長

ほかに質疑ありますか。

(なしの声あり)

委員長

それでは、報告済みといたします。

(2)、滝川市立病院経営計画(素案)について説明を求めます。

(2) 滝川市立病院経営計画(素案)について

田湯部長

市立病院の経営計画の素案を作成しましたので、説明させていただきます。当初、9月策定と執行方針で説明をさせていただきましたが、10月24日の厚生常任委員会でスケジュールの見直しについてご理解をいただいたところです。このたび、経営計画として素案を策定しましたので、ご報告させていただきます。総務省は病院事業を設置する地方自治体に対して新公立病院改革ガイドラインに基づき、新公立病院改革プランを策定して、病院機能の見直しや病院経営の改革に総合的に取り組むということとされております。経営計画自体は三つの大きな目標を定めています。経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指すものであり、平成32年度までの期間中に計上黒字化を目指す数値目標を定めた計画となっております。厚生常任委員会の本日の報告後、市との調整後、市立病院の情報共有を図りながら、3月には成案として公表させていただきたいと考えています。事務課長から計画案の概要について説明させていただきます。

堀 課 長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わりました。

質疑ございますか。

館 内

資料9ページ、滝川市国保加入者受診状況のグラフで、入院の部分だが、平成26年5月、27年5月、28年5月ということで、滝川市立病院が構成率25.5パーセント、16.5パーセント、18.7パーセントという形で、一方、札幌圏を見ると、26年5月が7.9パーセント、27年5月が15.7パーセント、28年5月が18.6パーセントとふえている。滝川市立病院は27パーセント減少になると思う。この急激な状況についての患者数は同水準で減少しているのか。

患者数が変わっている原因は、患者さんが何を求めて動いているのか、高度な医療を求めているのか、それともロコミなのか、評判のよい病院に流れているのか、いろいろ想像できるが、この点、どのように分析しているのか。

堀 課 長

このデータは1カ月分だけのデータになっているので、これをもってはっきりしたということは申し上げられないが、この間、当院の入院患者が折れ線グラフで見ていただきましたが、26年度は250人平均あったものが、27年、28年は210人台ということになって減少してきております。その要因の1つは、札幌への患者の流出があると思います。患者アンケートを実施して、患者さんのニーズ把握には努めているところですが、実際、札幌で受診された患者さんの状況というのは、把握していないところです。

委員長

ほかに質疑ありますか。

副委員長 概要版３ページ、収支計画と主な経営指標値の中で、医業収益についてだが、28年と29年を見ても、５億円以上上げていかなければこの計画になっていけないのですが、非常に高いと思うのです。厳しい立て方でないかと思って、もう少し切り込んで、達成できる計画を立てるのが筋ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

田湯部長 木下副委員長が心配されているのはわかりますが、総務省のガイドラインに基づいて、平成32年度に経常収支の黒字化を目指すということで、あらゆる手をつくして、65億円まではいけるという試算であります。今年度の入院患者の見込みですが、220名くらいとなります。外来患者が830名の見込みで、平成32年度の見込みが入院患者260名、外来患者860名という状況です。260名というのは、平成26年度、決算で253.3名で約7名増。860名の見込みは平成25年度876.6名という外来患者がありました。病床利用率についても、今年度70パーセント前後ということで、砂川市立病院が75パーセントくらいの稼働率ということで、道内でも小樽の市立病院が今年度に入って83パーセントくらいの稼働率ということで、当院は、32年度は82.8パーセントという目標の稼働率の設定と考えています。毎年、点検評価をしながら進めていくということで、実施計画と実施の差が大きければ、また見直しをしながら進めていきたいと考えています。

委員長 館内 ほかに質疑ありますか。

資料35ページ、考え方に平成27年度末に発生した借入金５億円については、平成32年度末には解消とあります。先のことを考えたときりが無いのですが、新たに、借入れが発生した場合、どのように対応されるか伺います。

単年度収支について、32年度までの計画が掲載されておりますが、貸借対照表がここに掲載されていない。これでは、固定負債と流動負債の変化がつかめ無いと思う。36ページでは、資金的収支表では、実質財源不足額が記されているので、貸借対照表も作成できると思うのですが、可能であれば、資料要求したいと思います。

堀 課 長 一時借入金の考え方について、収支計画の表の一時借入金の欄を見ていただきたいのですが、27年度は５億円の借入をしています。28年度、12月で7億6,000万円という数字を申し上げました。28年度、29年度は借入金が増えるといった見込みをしております。その上で32年度はゼロにしていくという計画ですので、今年度増える分を見込んでいくということでご理解願います。

委員長 田湯部長 資料要求がありましたが、所管はいかがですか。

固定負債と流動負債の状況が見えないということで、資料要求がありましたが、この表の中には、流動資産、流動負債ということで数値的には記載していますが、あとバランスシートの状況でできるかどうか検討させていただきたいと思います。その状況は事務局を通して委員にご報告させていただきたいと思います。

委員長 ほかに質疑ありますか。

(なしの声あり)

委員長 それでは、報告済みといたします。

若干、休憩します。

休 憩 15 : 15

再 開 15 : 17

委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

(3)、国保会計の平成28年度決算見込みについて説明を求めます。

(3) 国保会計の平成28年度決算見込みについて

(別紙資料に基づき説明する。)

原田課長
委 員 長

説明が終わりました。

質疑ございますか。

副委員長

過去の税率の改定の中で、被保険者数が平成28年度分を見ると1万1,408人から9,281人と減っていますが、原因はどんなことが考えられますか。

大崎係長

平成22年度から28年度で約2,200人減っていますが、この原因としては、国民健康保険に入っている方が、例えば、仕事をしますと社会保険に移行されますので、そういった減があります。また、ここ二、三年くらいはアベノミクスであるとか、そういった景気回復基調の中での社会保険への移行であるとか、人口が減ってくると当然その分も減ってきます。最近では、昨年の10月からパートの社会保険の枠が拡大ということで、それまで国民健康保険だった方が、要件が当てはまれば社会保険にかわるという改正もあり、そういった中で被保険者数の減少につながっていると分析しております。

委 員 長
館 内

ほかに質疑ありますか。

4定の一般質問で来年度からの税率見直しを視野に入れて現在試算をしているという答弁がありましたが、実際市民の国保加入者が支払う額が変更されるのはいつになるのか伺います。

原田課長

当初、29年度からも視野に入れてということで考えていました。実際に当初想定していた赤字幅が大幅に圧縮しているような状況です。毎月の医療費の関係、去年と比べて途中経過ですが、1億円以上減少しているようなこともありますし、国や道の交付金のシミュレーションも出てきて想定していたよりもお金が多く入ってきている状況もありまして、赤字幅が圧縮しています。実際、赤字額が発生しているわけではありませんので、30年度からの都道府県化で納付金の制度が変わるということで、この時点で保険税を見直さなければならないということがどうしてもありますので、そういったタイミングもありますので、29年度ということではなく、29年度中に検討作業を進めて、30年度からの税率見直しの検討作業を進めていきたいと考えています。

館 内

広報などで国保制度が変わるということにあわせて、金額も変わるということなので、市民の方は一律にその情報を知るということで理解して構わないのか伺います。

原田課長

都道府県化によって変わる納付金の部分と、例えば赤字が発生したら、赤字解消の部分で見直さなければならない部分というのは別々に考えなくてはならないと思いますが、まだ、正式に決まったとして明らかになっている部分は少ないのですが、来年度については、何回か都道府県化が決まってきたことを市民の皆さんにお知らせするというので、広報の回数も予算的に多くお願いしていこうと思っていますし、そういったことで、市民の皆さんには周知していきたいと考えていきたいと思っています。

委 員 長

ほかに質疑ありますか。

(なしの声あり)

委 員 長

それでは、報告済みといたします。

(4)、滝川市中央老人福祉センターの土曜日臨時休館について説明を求めます。

(4) 滝川市中央老人福祉センターの土曜日臨時休館について

鈴木係長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わりました。

副委員長 質疑ございますか。

鈴木係長 土曜日に開館したときの利用人数を伺います。

土曜日の利用状況についてですが、平成27年度実績は1年間で734人、うち389人がこのたび土曜日の定期利用をやめたクラブの人数のため、それを除くと345人の利用となっています。平均すると土曜日1日当たり、6人程度の利用となっています。

委員長 ほかにも質疑ありますか。

館内 臨時休館だが、ホームページなどに土曜日休館するということを出しているのか伺います。

鈴木係長 休みについては、利用されている方に対して、施設内に張り紙で周知しているほか、各単位老人クラブに対して個別に周知を行うなどして、実際利用されている方には、わかるような形で周知を行っています。

委員長 ほかにも質疑ありますか。

田村 土曜日休館というのは、既に老人クラブに回っているのです。残っている老人クラブの人は麻雀だったか、囲碁だったか、どちらか1つだったと思う。それでほとんど了解しているので、これはこれで試行的にではなく、休館にしたほうがよいと思います。

土橋課長補佐 速やかに我々も判断を行いまして、早ければまた2月常任委員会で報告できるように急ぎ準備を進めていきたいと考えています。

委員長 ほかにも質疑ありますか。

(なしの声あり)

委員長 それでは、報告済みといたします。

2 その他について

委員長 2、その他について、委員から何かありますか。

(なしの声あり)

委員長 事務局から何かありますか。

(なしの声あり)

3 次回委員会の日程について

委員長 次回委員会の日程については、正副委員長に一任することに決定してよろしいですか。

(異議なしとの声あり)

委員長 以上で第17回厚生常任委員会を閉会いたします。

閉 会 15 : 30